

“ふつう”への適応から ユニークな参加の創造へ

－ 韓日若者支援の現状と課題 －

若者たちが生きづらい社会を「このままでいい」と考える支援者はいません。生きづらさを抱え、苦悶する若者達に「そのままのあなたが素敵だ」と言い放置する支援者もいません。彼らが主体的に参加できる力を獲得する実践や社会を創り上げる為に、私たち支援者は何を行うべきでしょうか。ひきこもる若者達の背景にある抑うつや不安状態と、彼らが参加してきた社会との関係を探り、あるべき支援を考えることを目的とし、ひきこもりの若者達が育つなかで得てきた思いに耳と心を傾ける調査を行って来ました。その調査を通して、現在の社会に適応することが“ふつう”の生き方であるとの強迫的な思いを育てる「社会」を、その語りにみました。今、彼らの支援実践を通し、彼らを苦しめている“ふつう”への適応を問われなければなりません。

韓国ソウルにあるHAJA Centerは、競争主義からの相互の傷つきを克服する為に、友情とhospitalityを創り上げ自律的(自治的)に運営する場を築きあげることを目指します。その一環としてニート・ひきこもりを対象とする社会的企業Yooja Salonの支援哲学は、現在の韓国社会における“ふつう”への挑戦かもしれません。この社会的企業を展開するAnnancho氏を招き、韓日で今目指すべき若者達の新たな学び方と働きかたを目指した支援を展開します。

我が国の実践者からは、「社会」が求める“ふつう”と向き合い、自己の可能性を見出す若者が育つ支援を続けてきたNPO法人文化学習協同ネットワークの代表理事佐藤洋作氏と、悲鳴をあげる若者達と日々向き合いながら、若者と共に育つ地域づくりを目指す佐賀の実践者谷口仁史氏が、我が国で若者達が主体的な生活を送ることが可能となる実践・政策提起を行います。



illustration by Annancho / Copyright (c) 2011 Yoojasalon

テーマ 韓日若者支援の現状と課題 ニート・ひきこもり両国支援者が語る 若者の生活と求められる支援実践・政策

プログラム (敬称略)

● シンポジウム趣旨と課題

山本 耕平 (立命館大学産業社会学部教授)

『ひきこもる若者を社会との関わりで考える』

● 総論

佐藤 洋作 (NPO法人 学習協同ネットワーク代表理事)

『社会的排除される若者への総合的支援のあり方とは』

● 各論 - 支援の実際と課題 -

谷口 仁史 (NPO法人 スチューデント・サポート・フェイス代表)

『スチューデント・サポート・フェイスの取り組みと課題』

Annancho (韓国ソウル・社会的企業 Yooja Salon 代表)

『韓国の若者問題と Yooja が追い求める若者支援』

南出 吉祥 (岐阜大学地域科学部助教)

『若者の自立とその支援における課題の解明』

【日時】

2012年 **2月20日** (月)

午後1時～4時 (受付開始 12時30分)

【会場】

**立命館大学衣笠キャンパス
創思館1階 カンファレンスルーム**

【アクセスマップ】

http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_kinugasa_j.html

【キャンパスマップ】

http://www.ritsumei.jp/campusmap/map_kinugasa_j.html

※駐車スペースがございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

参加無料 (定員130名)・事前申込要

※Eメールにて、件名を「韓日若者支援研究シンポジウム申し込み」とし、本文に「ご氏名・ご所属・ご連絡先 (E-mail アドレス)」をご記入の上、ningen@st.ritsumei.ac.jp まで送信してください。

※満席の場合はご入場を制限させていただくこともございますので、ご了承下さい。

【お問い合わせ先】

立命館大学人間科学研究所 事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL: 075-465-8358 FAX: 075-465-8342

E-mail: ningen@st.ritsumei.ac.jp

URL: <http://www.ritsumei-human.com/>

【主催】

立命館人間科学研究所

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C) (課題番号 21530625) 「ひきこもる若者の社会的支援策の研究 - ケースコントロール・スタディを用いて -」